

令和7年度 東京研修報告書

新政クラブ会長 河野正行

- ・日程：令和8年1月13日（火）～14日（水）
- ・場所：財務省・国会・衆議院第一会館、第二会館・参議院会館
- ・参加議員 河野正行 藤間義明 鍛冶恵巳子 坂手洋介
寺前克宏 坂田優美 渡辺信明 森元健二

【内容】

1. 研修 藤井一博参議院議員
「診療報酬等の改定と地域医療について」
2. 舞立昇治財務副大臣訪問～石州瓦工業組合要望書
3. 波多野秘書への面会
4. 高見康裕衆議院議員～石州瓦工業組合要望書
5. 国会見学
6. 加藤勝信衆議院議員～石州瓦工業組合要望書
7. 西村康稔衆議院議員～石州瓦工業組合要望書
8. 青木一彦参議院議員～石州瓦工業組合要望書
9. 出川桃子参議院議員～石州瓦工業組合要望書

【所感】

河野正行

衆議院解散とささやかれる中、各事務所の秘書の皆様方には、大変丁寧な対応をしていただき、今回の研修を終えることができました。特に、舞立財務副大臣には、副大臣室にご案内いただき、40分もの時間お話をすることができました。今後の江津市にとってどのような方向に進むべきかのご示唆をいただきました。また、国会見学につきましても、高見事務所の2人の秘書の方に、丁寧にご案内いただきました。

藤間義明

「地域医療について」のお話を聞きました。藤井一博参議院議員は国会議員であると同時に医師でもあり、国会議員から見た地域医療の現状、今後についてお話を聞き大変参考になりました。

また財務省へ行き、舞立昇治財務副大臣にお会いし、石州瓦についての要望書を渡しました。副大臣は石州瓦の事を気にかけておられ、様々な考えを示され大変参考になりました。

また国会見学と参議院議員青木一彦事務所波多野秘書、高見康裕衆議院議員秘書、加藤勝信衆議院議員秘書、西村康稔衆議院議員、青木一彦参議院議員、出川桃子参議院議員秘書に石州瓦要望書を渡しました。

今回の要望活動ではお忙しい中にも拘わらず5名の方にお会いしていただき直接お話しできました。その中でも石州瓦の公共施設の活用は、多くの先生が進めるべきとおっしゃっていました。力強いお言葉で私達への大きな励みになりました。

鍛治恵巳子

診療報酬改定について、報酬改定の流れ、スケジュール、令和8年度改定率、これまでの改定率の推移などの資料を基に説明を受けた。

病院の事業利益率の推移では、本市にある済生会江津総合病院もコロナ補助金があったときはまだ経営はプラスになっていたが、その補助がなくなってからは利益率、経営が悪化している。全国的にも同じ様なところが多い状況だということも確認した。

病院の収支では人件費の占める割合が大きい。

本市のような地方において医療過疎問題・診療報酬制度に関しては都市部とは違う政策が必要と感じており、現場の声をしっかり聴いて一緒に取り組んでいきたい。

坂手洋介

令和8年度の診療報酬改定について、日本経済が新たなステージに移行しつつあり、物価・賃金の上昇、人口減少の中での人材確保、現役世代の負担の抑制努力の必要性、安心・安全で質の高い医療の実現、持続的な医療提供体制の構築などの基本認識のもと診療報酬（本体）が改定され、具体的方向性を含め解説いただきました。

地域医療について、山形県の「地域医療連携推進法人、日本海ヘルスケアネット」を例に、全国でも多くの連携法人があり、地域医療体制の充

実に向けての活動について解説いただきました。

本市においても「江津メディカルネットワーク」があり、現状と今後の課題などで意見を交換しました。

地方において、効率的かつ質の高い医療体制構築や医療と介護の連携強化などが急務の課題でありしっかりと取り組んで行かなければならないと感じました。

寺前克宏

藤井一博参議院議員より「診療報酬等の改定と地域医療について」講義を受けました。診療報酬制度について資料をいただき、診療報酬の改定は、医療の進歩や日本の経済状況を踏まえて、通常2年に1度見直しが行われることが分かり、平成8年度にプラス3.09%の改定が行われ、その財源は約1兆5000億円に上がることが説明されました。

また、2018年度と2023年度の100床当たりの損益を比較すると、事業収益の増加(+10.3%)以上に事業費用が増加(+14.7%)したため、事業利益が悪化。金額ベースでは、費用の50%超を占める人件費増加の影響が最も大きいことが分かり、昨今の病院経営の悪化の原因の一端を知ることができました。

地域医療連携推進法人について、全国で11番目に設立された、江津メディカルネットワークについて言及されましたが、その活動が停滞していることを残念に思われたようですが、今後は、その活動も積極的に推進していく必要があると感じたところです。

翌14日は、人生で初めて国会議事堂に入ることができました。議事堂に繋がる通路に入った瞬間に、長い時間が積み重なった空気を感しました。建築物の構造、建築費、部屋割りなど先人の憲政に対する様々な思いがにじんでいるように思えました。議員として心を新たにす良い機会になりました。

坂田優美

今回の研修を通じ、国も地方医療の危機を強く認識しているものの、財源や制度の壁があることを再確認した。特に印象的だったのは、議員が「現場の声」を直接求めておられる姿勢である。私たち市議会議員は、市民の不安や現場の窮状を丁寧に吸い上げ、国会議員を通じて国政にフィードバックする「パイプ役」としての責任を再認識した。地域医療の維持という生存権に関わる課題についても、継続的な働きかけを行っていく必要がある。

渡辺信明

参議院議員 藤井一博様から「診療報酬等の改定と地域医療」について、教示いただきました。令和8年度の診療報酬改定率は診療報酬(本体)で+3.09%と12年ぶりのプラス改定で、プラス幅も非常に高いこと、また、その改定に至るまでの動きを聞かせていただきました。地域医療連携推進法人の事例では、山形県の「日本海ヘルスケアネット」が円滑に運営できているという情報提供をいただきました。令和8年度の診療報酬等の改定が、今後の地域医療にどのように影響してくるか注視していきたい

い。

江津市ゆかりの各国会議員の皆さまに、要望書を手交しました。衆議院の解散検討時期のため、秘書への手交もあったものの、皆さまに興味を持って聞いていただけたと感じました。

また、舞立昇治財務副大臣には桜江町谷住郷地区の茶畑の件を、青木一彦参議院議院運営委員長に人口減少対策及び江の川治水対策について、直接、要望・意見交換することができました。今後も、このような機会に要望を継続していきたいと思います。

参議院議員会館、衆議院第一議員会館及び第二議員会館には、数回訪問していることから慣れてきたものの、財務省は初めての訪問であり、副大臣室に入るような機会はなかなかないことから良い経験となりました。要望活動など、今後の市議活動に活用していきます。

国会議事堂内を初めて見学しました。昭和11年に竣工した歴史のある建物で、重厚さを感じた。ただ、傍聴席は直角であるなど使い勝手はあまり良くないように感じ、DX化なども難しいように感じました。

現在、人口の東京一極集中が問題になっていますが、官庁などを地方に分散させるためには、こういった歴史のある施設や社会資本を今後どうしていくのかなど検討する必要があると感じました。

森元健二

診療報酬等の改定と地域医療について、参議院議員藤井一博氏より説明をいただいた。

診療報酬の改定について、改訂に向けての活動についての説明のうち、本市の地域医療の実際について意見交換を行った。本市の地域医療に対する具体的な取り組みや、診療報酬等の改定による現役世代への影響などについて意見を伝えた。